

若い感性 知事に論戦挑む

高校生ら14人登壇

高校生議会が8月5日、県議会本会議場で開かれた。高校と特別支援学校の計14人の生徒が登壇。原稿再稼働から県立図書館のネットワーク利用まで各自の関心に沿って元氣一杯に質問や提言をすると、平井知事や山本教育長からは「高校生らしい斬新な発想での提案。検討させていただきます」などと実行を約束する答弁も飛び出し、実り多い論戦が終日続いた。



部の高校・特別支援学校に参加を呼びかけたところ、13校から応募があった。参加生徒1人に担当の県議1人が付き、6月から質問原稿の作成を開始。県議は生徒に係資料を渡したり、相談相手になったりして準備を進めてきた。高校生議会当日は午前10時に集合し、担当県議と最後の打ち合わせをして本会議場の議員席に。野田修議長が「体験に勝る会得なし。今日の体験が糧となり、鳥取県の将来を担う人材に育つことを願っています」と挨拶した後、智頭農



林高の青木那月君が議長席に着いて論戦に突入した。生徒1人の持ち時間5分間。昼の休憩をはさみ、午後3時過ぎまで熱い質問が続いた。

米子東高の水原大河君は、米子で開かれたエコツアーリズム国際大会やトライアスロンを紹介しつつ、「若者が観光客のもてなし方などを学ぶ鳥取エコツアーリズムスクールを皆生温泉に設立しては」と提案すると、平井知事は「エコツアーリズム推進のための人材育成の場を広げていきたい」と賛同した。「国際系が美術系の4年生公立大学を新設して若者の人口流失を止めるべきだ」と提言したのは鳥



取敬愛高校の高田弘記君。平井知事は「悩ましい課題」と否定しつつも、かつては、鳥取環境大学が定員割れで赤字経営だったことなどを詳しく説明して理解を求めた。高校生議会終了後、生徒たちは「自分たちの生活に県政が深く関わっていることを知る貴重な体験をした」と話すなど概ね好評だったが、「原稿作成時、議員が論理的過ぎて、生まれて初めて悩みそが汗かく体験までした」という感想も。引率教員からは「生徒同士が意見交換する場があれば、より建設的になるのでは」と、本物の議会同様、議員間討議の必要性を指摘する意見も聞かれた。